

菩薩は菩薩を 友とする

令和6年6月17日(月)

❖会 場／岡本寺 本堂
❖講 師／特派布教師：川上宗勇老師
(東京都台東区 永伝寺 御住職)

「ほ～わ」を
聞きましょう

❖受 付／9:15～ 般若心経お勤め 9:30～
法話だけお聞きになりたい方は9:50までに本堂へ

❖講演会／10:00～11:30ごろ



特派布教師 川上宗勇老師
東京都台東区永伝寺 御住職

2024年1月1日に発生した能登半島地震に、東京曹洞宗青年会の若手僧侶とともに川上老師もボランティアとして参加されました。被災地の人々が直面している深刻な現場で、自ら立ち上がり少しでも生活再建をと努力する地元の方々の姿が、ボランティアに入った青年僧の心を動かし、青年僧の額に汗して働くその姿に、地元の人々が励まされ、復興への思いを強くしていく、というような場面を目の当たりにされたそうです。

道元禅師の『正法眼蔵』の“菩提薩埵四摂法”の巻の中に「かの琴詩酒(キンシシュ)は、人をともし、天をともし、神をととす。人は琴詩酒をととす。琴詩酒は琴詩酒をとともし、人は人をとともし、天は天をとともし、神はかみをととすることわりあり。これ同事の習学なり。」＝意味は「かの琴や詩や酒(風雅の楽しみとしての琴と詩と酒)は、人を友とし、天を友とし、神を友としています。また人は、琴や詩や酒を友としています。さらに琴や詩や酒は、琴や詩や酒を友とし、人は人を友とし、天は天を友とし、神は神を友とするという道理があります。これが同事(菩薩が衆生を導くために、衆生に近づいて、苦楽をともにし、事を同じくすること)を学ぶことです」とあります。被災地の人々とボランティアに入った青年僧の中にこのような関係性を見たと川上老師は言われます。そのことが今回の法話のテーマ「菩薩は菩薩を友とする」になったといえます。(住職：平田信活 記)

主催：観瀧山 岡本寺 (こうほんじ)

〒666-0121 川西市平野1-33-14 TEL072-793-0203